

# 熊野身障連だより

熊野市身体障害者（児）福祉連合会  
発行責任者 森岡寛佳

市民の皆様へ  
身障連会長からのご挨拶



日頃は、熊野市身体障害者（児）福祉連合会の活動にご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

令和七年度も、総会、防災訓練、新年会とすべての事業を行うことができました。総会では、紀の川良子さんのご訪問で、親睦会は大変盛り上がり楽しい時間を過ごすことができました。そして例年の防災訓練では、今年も熊野市消防署による救急講話で心肺蘇生法などを学びました。

津波警報が発令されました。高台への避難指示が出るなど、いつもの訓練と違う緊張感に包まれましたが、大変学びの多い経験になりました。いつ起こるかわからない災害に対応出来るように、今後も防災事業を継続し知識や訓練、備蓄の大切さを学んでいきたいと思えます。

その他、熊野市食生活改善推進協議会の「ふれあい料理教室」、熊野市総合防災訓練や市民スポーツ祭への参加、市内の小中学校への福祉授業など、私達の障がいも少しも知ってもらい、だれもが暮らしやすい、より良い社会になるよう活動をしています。

令和八年度も、例年通りの事業を進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。そして障害者手帳をお持ちの方やそのご家族の参加をお願い申し上げます。みんなで手を取りあい、助け合っで明るく生きていける道を構築していきましょう。

紀の川良子さんによる  
楽しく華やかな歌謡ショー



- |         |       |    |        |     |        |    |      |       |       |       |       |      |      |        |       |       |       |       |    |     |               |
|---------|-------|----|--------|-----|--------|----|------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|-------|-------|-------|-------|----|-----|---------------|
| 令和七年度役員 | 森岡 寛佳 | 会長 | 井奥 つな子 | 副会長 | 細尾 せつ子 | 理事 | 九鬼 明 | 谷川 絹子 | 中田 重顕 | 中村 昭義 | 野々村 勇 | 日浦 勲 | 洞 良夫 | 森脇 眞利子 | 大桑 慶子 | 山本 敦子 | 谷川 充人 | 都竹 郁氏 | 顧問 | 事務局 | (熊野市社会福祉協議会内) |
|---------|-------|----|--------|-----|--------|----|------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|-------|-------|-------|-------|----|-----|---------------|

## 追悼 谷川絹子さん

中田重顕



熊野市身体障害者（児）福祉連合会理事の谷川絹子さんが、令和七年九月二十日、お亡くなりになった。私にとっては家族同然だったので未だに信じられない痛恨事である。絹子さんは、旧姓高島で阿田和の出身。私どもが結成して熊野の障がい者運動の黎明だったと自負している、「雑草の広場」の初期からの会員だった。明るい活発な性格で、彼女がいるとぱっと明るくなった。歌が上手で、自分の姓にちなんだ「目んない千鳥の高島田」という歌謡曲をよく歌ってくれた。

## 若き日の絹子さん、清博君、充人さん



やがて、会長の谷川充人君と愛しい結婚に結びついた。雑草の広場会員同士では、初めての結婚だったのでみんな我がことのように嬉しく、私など新婚早々の新居で何度も泊めていただいた。料理が上手なので彼女の料理で酒をいただくのが嬉しかったのだ。やがて、珠のような男の子を授かった。清博君である。もう、雑草の広場みんなの子どものようなもので、みんなでかわいがった。あの頃、雑草の広場ではバスツアーやキャンプを毎年行っていて、会長である充人君の負担と責任は重かったのだが、絹子さんも清博君を連れ

て会長を補佐し、頑張ってくれていた。あれから長い年月が経った。子どもたちは成長し、私たちは年老いた。そしてついに絹子さんは旅立ってしまった。お通夜の席で、彼女の遺影を拝んでいると嗚咽がこみ上げた。ご冥福をお祈りするばかりである。

## 谷川充人顧問 訪問



最愛の妻を失ってさぞや力を落としていることだろう、本会顧問谷川充人君を、ケアホーム熊南に井奥つな子副会長とともに訪ねた。充人君の長男清博君に連れていただいた。立派

しい。久しぶりに会う充人君は予測していたより元気で若々しかった。気丈な人だから、人に悲しんだり、落ち込んだりする姿を見せないようにしているとのこと。昔のことを想い出して話は弾んだ。今、晩酌できないことがもつとも寂しいという。酒飲みにはよく分かる。手を取り合ってから辞した。

## 的場俊文さん 逝去

ケアホーム熊南に入所していた本会会員の的場俊文さんが、令和七年七月十日に逝去されました。六十九歳でした。明るいキャラクターでみんなに愛され、「君の瞳に乾杯」が得意でいつも乾杯の音頭をとってくれました。ご冥福を心からお祈りします。



## 森岡寛佳会長による 福祉体験学習



令和七年十一月十一日、森岡寛佳会長が御浜小学校での福祉体験学習会に講師として招かれ、訪問した。

御浜小学校と神志山小学校が合同で行っている福祉授業の一環。両校の四年生に、大学生の時、事故で頸椎を損傷して下半身不随となったことや、家族、友人たちに励まされて生きていること、元気な姿を見せることなどを講話した。

自動車の運転や車いすバスケットの映像も見てもらい、「健常者も障がい者も一人では生きていけない、みんなが協力し助け合って生きていける社会を」と児童に呼びかけた。

講話の後、児童にニュースポーツのスクエアポッチャを体験してもらった。



児童たちは目をキラキラさせて聞いてくれ、心のこもった感想を書いてくれた。個人で新聞を出すというユニークな形式の感想。御浜小学校の了解を得たのでその一部を抜粋して紹介する。

### 久保菜由さん 「福祉新聞」

今日は下半身がまひしている森岡さんが来てくれました。森岡さんは車いすバスケットをしています。車いすは外と中で分けているそうです。外は軽くコンパクトなもの、中はゆつ

たりしたせもたれの高いものだそうです。森岡さんのことばをしようかいます。「健常者も障がい者も一人では生きていけません」

### 植村小町さん 「とことこ新聞」

森岡さんは、高校の時は野球をしていたけど、じこにあって手足がまひしました。車いす生活になったとき「どうしよう」と思ったそうです。

今日はいろいろなことを知ることができました。とくにおきあがるとき、自分でおきあがっているのがすごいと思いました。

森岡さんがさいごに言ってくれた「一人では生きていけないからたすけあう」ということばを大事にしたいです。

### 坂田きりさん 「森岡さんおうえんしんぶん」

わたしは森岡さんは「どりよくの男」だと思いました。なぜかというとおふろや車に乗るとき、すぐたいへんそうでしたし、おふろの時もちよびちよびと行くのが、ちよつとめんどうくさそうでした。だから努力していると思ったのです。足や

手がそんなに動かないのが分かりました。でも楽しそうでした。

車いすバスケット、ゴールが二つあるのにびつくり。ダブルドリブルやトラベルリングないんですか。後、ポッチャうまかったです。

### 出口伶さん 「足にしようがいのある人の新聞」

森岡さんは大学生の時に交通事故にあい足がふじゆうになりました。

「スポーツはなにをしますか」というしつもん「車いすバスケットをしてる」と答えてくれました。その映像を見るとゴールが二つあり、森岡さんがゴールを決めているのにびつくりしました。ゴールが二つあるのは腕などに力のある人は高いゴールへ、そうでない人は低い方のゴールへなげることがわかりびつくりしました。

わたしは、森岡さんのように足のふじゆうな人がいれば、こえをかけるようにしようと思いました。

## 防災講話 熊野市消防本部から

今年の身障連防災訓練は、熊野市消防本部から宮本さん、久保さん兩名の職員に来ていただき、救急講話と心肺蘇生法の実技を見せていただいた。熊野市民生委員児童委員協議会、紀南バリアフリー研究会、紀宝町身体障がい者福祉会の伊賀会長さん初め多くの会員が参加した。



まことに有意義な話をユーモアも交えて講話いただき、質問もたくさん出た。  
私たちが最も気をつけなければならぬことは、119番通報するとき、まず落ち着いて、名前と場所を告げること。場所が分からないと出動する

ことができない。聞かれたことには冷静に答えること。

応急手当が必要な時は電話で指導してくれるので電話のスピーカー機能を活用すること。その後お二人の係員による名演技の実技講習を見せていただき、まことに有意義な研修になった。心に刻みたい。

研修の後はビンゴゲームで一息。賞品が嬉しい。

最後は、あゆみ事業所の利用者者と職員による楽しいダンスの披露があった。何ヶ月も練習されてきたとのこと。利用者も職員もみんな心から楽しそうな表情が何より嬉しい。お弁当もいただいて楽しく有意義な一日となった。



## ひとくちメモ デフリンピック

令和七年十一月に、デフリンピック東京大会が開催された。デフリンピックとは聞き慣れない言葉だが、四年に一度行われる、聴覚に障がいをもつ人たちのスポーツの祭典。デフとは英語で耳が聞こえないという意味だそう。パラリンピックより歴史は古く、第一回は1924年にパリで開かれている。日本で開催されるのは初めて。七十九の国や地域から三千人の選手たちが参加した。日本勢は陸上や競泳を中心に過去最高の五十一のメダルを獲得した。陸上女子リレーに出場した門脇翠選手は、デフスポーツに取り組むようになって、「そこで聞こえないのが当たり前」の世界を知り、聞こえない自分を初めて肯定出来て、価値観が変わった」という。さらに、聴覚に障がいがあるてそれを「苦しい」と感じる人がいれば、デフスポーツに驚きと楽しみを感じてほしい、とも語っている。デフスポーツがもっと社会で知られ、発展して行くことを期待したい。

## 楽しい楽しい新年会

熊野市身体障害者(児)福祉連合会でもっとも楽しい行事は毎年年初めに行われている新年会です。紀南バリアフリー研究会の方々もご参加下さり、会員との懇親を深めます。温泉に入る方、ひたすからお酒を飲む方、料理を楽しむ方・

一年に一度、何もかも忘れて楽しい一日を過ごします。皆さん、熊野市身体障害者(児)福祉連合会の事業に参加してみてください。楽しいですよ。

